

環境省請負業務

平成 24 年度
知床半島先端部地区適正利用促進業務
報告書

平成 25 年 3 月
環境省釧路自然環境事務所
公益財団法人 知床財団

報告書概要

1. 業務名（英名）

平成 24 年度知床半島先端部地区適正利用促進業務

(The promotion of proper use of the apical region of the Shiretoko Peninsula)

2. 業務の背景と目的

知床半島先端部では、海流等の影響により沿岸部に毎年多くのゴミが漂着しており、また、エゾシカの増加に伴う外来種であるアメリカオニアザミの侵入及び定着が確認されている。

この課題に対し、知床岬では地元自治体等において、ボランティアによるゴミ拾いが実施されているほか、環境省も地元住民のボランティアによる外来種防除活動を実施するなど対策を講じているが、漂着ゴミの総量や外来種の分布状況が共有されていないことから、ボランティア活動を行う各団体間の連携や役割分担が十分に図られておらず、課題解決に向けた計画的取組に至っていない。

また、知床半島はシマフクロウの重要な生息地であるが、観察や写真撮影等を目的とした人の立ち入りが繁殖等に影響を与える事が懸念されている。

そこで本業務では、(1) 知床半島先端部地区の漂着ゴミ及び外来種調査、および(2) シマフクロウとの共生のための啓発資料の作成の2種類の業務を実施した。

4. 事業の実施体制

本事業は、環境省からの請負事業として公益財団法人 知床財団が実施した。

5. 事業の手法・概要

- (1) 11月20日に知床半島先端部地区（赤岩～文吉湾）における漂着ゴミの分布状況、およびアメリカオニアザミの分布状況について調査を行った。調査結果をもとに漂着ゴミの分布図、およびアメリカオニアザミの分布図を作成した。
- (2) シマフクロウとの共生のための啓発資料として、シマフクロウの生態や生息状況、保護の取り組み、問題等を取りまとめた映像を作成した。撮影に当たっては、シマフクロウ専門家の指導のもと、最低限の証明を用いるなどの配慮を行った。

6. 事業結果

- (1) 漂着ゴミは、知床岬地区に一様に分布しているのではなく、多い場所と少ない場所があること、ゴミのサイズや種別によっても分布の傾向が異なることが明らかになった。アメリカオニアザミの分布範囲は縮小してきているものの、根絶には至っていない。本調査においてアメリカオニアザミが生育していたのは、風当たりが強く植生回復が遅い傾向にあり裸地の多い場所、及び生育している場所が砂利であるため、根元近くからの刈り取りが困難な場所であった。
- (2) シマフクロウに興味を持ち、知床を訪れる公園利用者への普及・啓発資料として、映像「シマフクロウの未来のために」(約9分間・DVD-VIDEO形式)とした。公園利用者は、この映像を視聴することで、シマフクロウの生態や希少性、環境省などによるシマフクロウ保護増殖への取り組み、もし公園利用者がシマフクロウに出会った場合に守るべきマナーなどについて知ることができるような内容とした。

6. 今後の予定

- (1) 本調査におけるゴミの種別による場所別の漂着情報により、ゴミ拾い等のボランティア活動を行う際には、カン・ビン類やペットボトルなどの収集、運搬が容易な小さいゴミが相対的に多かった区画を主対象として実施することが想定される。一方で、漁業に係る網・ロープ類やプラスチック類などの人力による収集が困難な大型のゴミについては、今後の分布の状況の変化を把握しながら、ヘリコプターの使用といった手法を検討する必要がある。アメリカオニアザミについては、分布拡大を抑制し根絶を目指すためには、刈り取り作業を啓吉湾から文吉湾にかけての海岸から台地上、知床岬灯台下、及び赤岩地区について重点的に実施することを検討する必要がある。ボランティア活動によって刈り取り作業を実施する場合には、船による入出港場所から近い啓吉湾から文吉湾にかけての海岸から台地上が現実的であると考えられる。
- (2) 特になし。

7. その他

特になし

目次

報告書概要	1
1. <u>業務の目的</u>	1
2. <u>知床半島先端部地区の漂着ゴミ及び外来種調査</u>	2
2-1. <u>業務の内容</u>	2
2-2. <u>調査の方法</u>	2
2-3. <u>調査結果</u>	3
<u>漂着ゴミの分布</u>	3
<u>外来種アメリカオニアザミの分布</u>	17
2-4. <u>まとめ</u>	20
3. <u>シマフクロウとの共生のための啓発資料の作成</u>	21
3-1. <u>業務の内容</u>	21
3-2. <u>業務実施スケジュール</u>	23
3-3. <u>まとめ</u>	24
4. <u>資料</u>	25
4-1. <u>「シマフクロウの未来のために」シナリオ</u>	25
4-2. <u>字幕スーパー対訳</u>	40
4-3. <u>打合せ記録簿</u>	42
4-4. <u>専門家ヒアリング資料</u>	49

1. 業務の目的

知床半島先端部では、海流等の影響により沿岸部に毎年多くのゴミが漂着しており、また、エゾシカの増加に伴うアメリカオニアザミの侵入及び定着、セイヨウオオマルハナバチの侵入及び定着が確認されている。

この課題に対し、知床岬では地元自治体等において、ボランティアによるゴミ拾いが実施されているほか、環境省も地元住民のボランティアによる外来種防除活動を実施するなど対策を講じているが、漂着ゴミの総量や外来種の分布状況が共有されていないことから、ボランティア活動を行う各団体間の連携や役割分担が十分に図られておらず、課題解決に向けた計画的取組に至っていない。

また、知床半島はシマフクロウの重要な生息地であるが、観察や写真撮影等を目的とした人の立ち入りが繁殖等に影響を与える事が懸念されている。

知床半島先端部地区では、動力船によるレクリエーション目的での立入を制限しているため、ゴミ拾い等のボランティア活動も適正に実施されることが必要である。

本業務では、1) 知床半島先端部地区の漂着ゴミ及び外来種調査、および2) シマフクロウとの共生のための啓発資料の作成の2種類の業務を実施した。次項より、それぞれの業務実施結果等について報告する。

2. 知床半島先端部地区の漂着ゴミ及び外来種調査

2-1. 業務の内容

知床半島先端部地区では、動力船によるレクリエーション目的の立入が規制されているため、ゴミ拾い等のボランティア活動についても適正に実施されることが必要である。そこで、今後のボランティア活動での活用を想定し、知床岬地区（文吉湾～赤岩地区）における漂着ゴミ及びアメリカオニアザミの状況について調査を実施した。

2-2. 調査の方法

平成 24 年 11 月 20 日に羅臼町相泊漁港から知床岬先端部地区の文吉湾へ船舶で移動し、文吉湾に到着後に漂着ゴミについて海岸線を中心に赤岩地区まで調査員 3 名で歩いて全体像の把握を行った。そしてゴミの多い場所と軽微な場所とゴミの種別を記録しておき、赤岩地区に到着した際にゴミをカン・ビン類、ペットボトル、漁業系網・ロープ、漁業系プラスチック製品に区分し、各区分のゴミの凡その量をもとに相対的に評価することとした。場所は分布を調べる上で便宜的に 16 地点を設定し、15 区画に区分した（表 1）。

評価は 4 段階とし、0：ない、1：探せば見当たる程度でほとんどない、2：点在していて、目に付く程度、3：各種ゴミが散乱しており、常に視野に入る、という基準で相対的に行った。流木については、参考という位置づけで記録を収集した。また、テレビや冷蔵庫などの家電ゴミ、ドラムカン、及びタイヤなどの目立つ大きなゴミについては、備考として記録した。

アメリカオニアザミについては、文吉湾から赤岩地区までの移動の際にブラウン・ブランケの方法による被度を参考として記録した。また、他業務（平成 24 年度生物多様性の保全と活用による国立公園活性化事業（グリーンエクスパート）「知床国立公園生態系保全対策業務」、及び平成 24 年度グリーンワーカー事業知床岬地区セイヨウオオマルハナバチ等対策業務）で知床岬先端部地区を訪れた際に得た情報についても分布状況の記録として加えた。

表 1 ゴミ調査を区分した位置情報

GPS 位置番号	緯度	経度
1	44° 19' 29.02"	145° 20' 31.34"
2	44° 19' 47.44"	145° 20' 26.33"
3	44° 20' 02.95"	145° 20' 28.17"
4	44° 20' 16.47"	145° 20' 40.99"
5	44° 20' 24.14"	145° 20' 24.16"
6	44° 20' 29.95"	145° 20' 12.21"
7	44° 20' 33.44"	145° 20' 09.61"
8	44° 20' 36.07"	145° 20' 08.26"
9	44° 20' 38.88"	145° 20' 00.03"
10	44° 20' 40.60"	145° 19' 55.43"
11	44° 20' 39.73"	145° 19' 48.15"
12	44° 20' 36.89"	145° 19' 40.24"
13	44° 20' 29.91"	145° 19' 30.74"
14	44° 20' 25.26"	145° 19' 20.27"
15	44° 20' 14.81"	145° 19' 15.23"
16	44° 20' 09.14"	145° 19' 13.66"

2-3. 調査結果

漂着ゴミの分布

赤岩地区から文吉湾までを便宜的に 15 区画に分けて調べた結果、全体として漂着ゴミが相対的に多かったのは、赤岩地区の区画 3-4、アブラコ湾と啓吉湾間の区画 12-13、及び 13-14 であった(図 1~図 5)。一方で少なかったのは、知床岬灯台の海側に位置する区画 5-6、7-8、及び 9-10 であった。

ゴミの区分別にみると、カン・ビン類とペットボトルの分布状況は類似しており、区画 3-4、8-9、11-12、12-13 及び 13-14 に相対的に多かった。また、漁網と漁業系廃棄物の分布状況も類似しており、アブラコ湾~文吉湾、区画 3-4 及び 6-7 に多かった。家電ゴミやドラム缶などの大型の目立つゴミは、調べた範囲内に広く認められた。また、区画 7-8、及び 12-13 は漂着物が一部に偏っていた。

各区画の漂着ゴミの状況を現場の写真とともにメモを記す(写真 1~写真 15)。

表 2 各区画のゴミ等区分別の相対評価

(便宜的な基準は、0：ない、1：探せば見当たる程度でほとんどない、2：点在していて、目に付く程度、3：各種ゴミが散乱、常に視野に入る)

区画	缶・ビン類	ペットボトル	漁業系網・ロープ類	漁業系プラスチック	流木(参考)	備考
1-2	2	1	2	1	1	番屋周辺に大きな魚網の塊が2つ
2-3	2	1	2	1	1	タイヤ3、テレビ1、ドラム缶1、ワイヤー巻き取り機1
3-4	3	3	3	3	3	放棄番屋遺物多数、タイヤ1、小型冷蔵庫1
4-5	2	1	1	1	1	タイヤ2、重機タイヤ1、FRP船体の一部
5-6	1	1	1	1	1	重機タイヤ1、ロシア製小型ボート1、薬品プラタンク1
6-7	1	1	3	2	3	タイヤ2、バレーボール1
7-8	1	1	1	1	1	当区画の西側はほとんどゴミ無し
8-9	2	2	1	2	2	タイヤ1、ドラム缶1、放棄番屋廃材多数
9-10	1	1	1	1	1	漂着物はほとんど見当たらず
10-11	1	1	2	1	3	ドラム缶3、タイヤ1
11-12	2	2	2	1	3	クーラーボックス1
12-13	3	3	2	3	3	ドラム缶1、漂着物は西側に偏る
13-14	3	3	3	3	3	区間3-4同様に漂着物多い
14-15	1	1	3	2	3	冷蔵庫1、漂着物は湾の東側に偏っている
15-16	1	1	3	3	3	テレビ1



写真 1 区画 1-2 の様子

(カン・ビン類、及び細い漁業系のロープが波打ち際を中心に点在していた)



写真 2 区画 2-3 の様子

(区画 1-2 と同様にカン・ビン類、及び細い漁業系のロープが波打ち際に点在していた)



写真 3 区画 3-4 の様子

(各種のゴミが散乱しており、知床岬地区でゴミが極めて多かった区画の1つ)



写真 4 区画 4-5 の様子

(流木を含め漂着物は少なく、カン・ビン類がやや目に付く程度であった)



写真 5 区画 5-6 の様子

(流木を含め漂着物は少なかったが重機のタイヤ、及びロシア製小型のアルミボートが漂着していた)



写真 6 区画 6-7 の様子

(カン・ビンなどの小型の漂着ゴミは少なかったが、流木とともに漁業系網・ロープ類が散乱していた)



写真 7 区画 7-8 の様子

(流木を含め漂着物は少ない状態であった)



写真 8 区画 8-9 の様子

(朽ちる寸前の放棄された番屋の廃材や放置物が多数散乱していたほか、各種ゴミが目立った)



写真 9 区画 9-10 の様子

(全体的に漂着物は少ない状態であった)



写真 10 区画 10-11 の様子

(流木が極めて多く漂着している状態であった。流木に絡まるように多くの漁業系網・ロープ類が見られたほか、ドラムカンやタイヤも漂着していた。)



写真 11 区画 11-12 の様子

(多くの流木が潮上帯にみられ、各種ゴミが目につく状態であった)



写真 12 区画 12-13 の様子

(漂着ゴミは流木とともに湾の西側に偏っており、各種ゴミが重なり合い散乱している状態であった)



写真 13 区画 13-14の様子

(区間 3-4 と同様に流木とともに各種漂着ゴミが極めて多い区画の 1 つであった)



写真 14 区画 14-15の様子

(漂着ゴミは流木とともに湾の東側に偏っており、漁業に係るゴミが散乱している状態であったが、カン・ビン類やペットボトルなど小型のゴミは少なかった)



写真 15 区画 15-16 の様子

（区画 14-15 と同様に漁業に係るゴミが流木とともに散乱している状態であったが、カン・ビン類やペットボトルなど小型のゴミは少なかった）

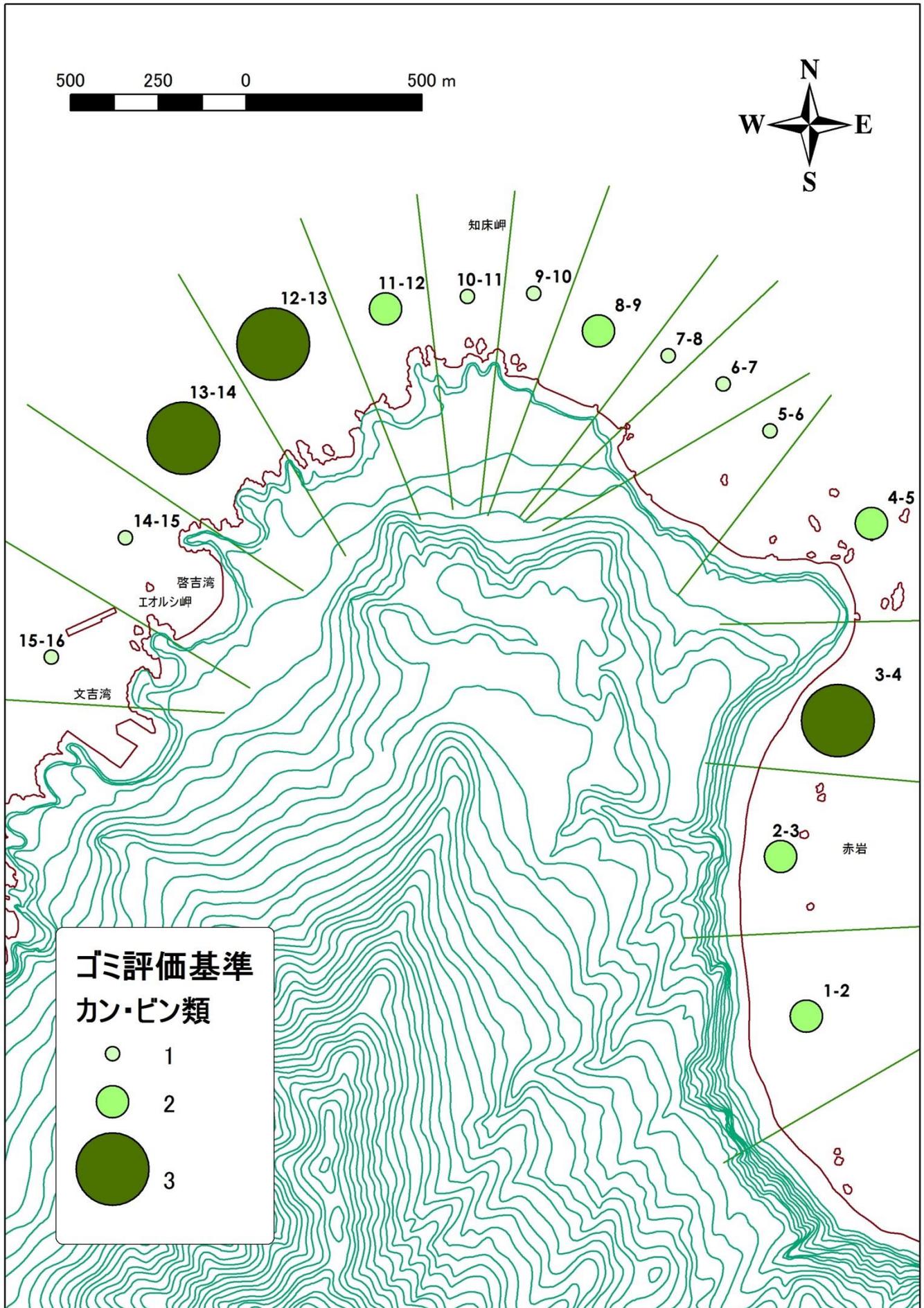


図 1 知床岬地区(文吉湾～赤岩地区)漂着ゴミ分布図 (カン・ビン類)

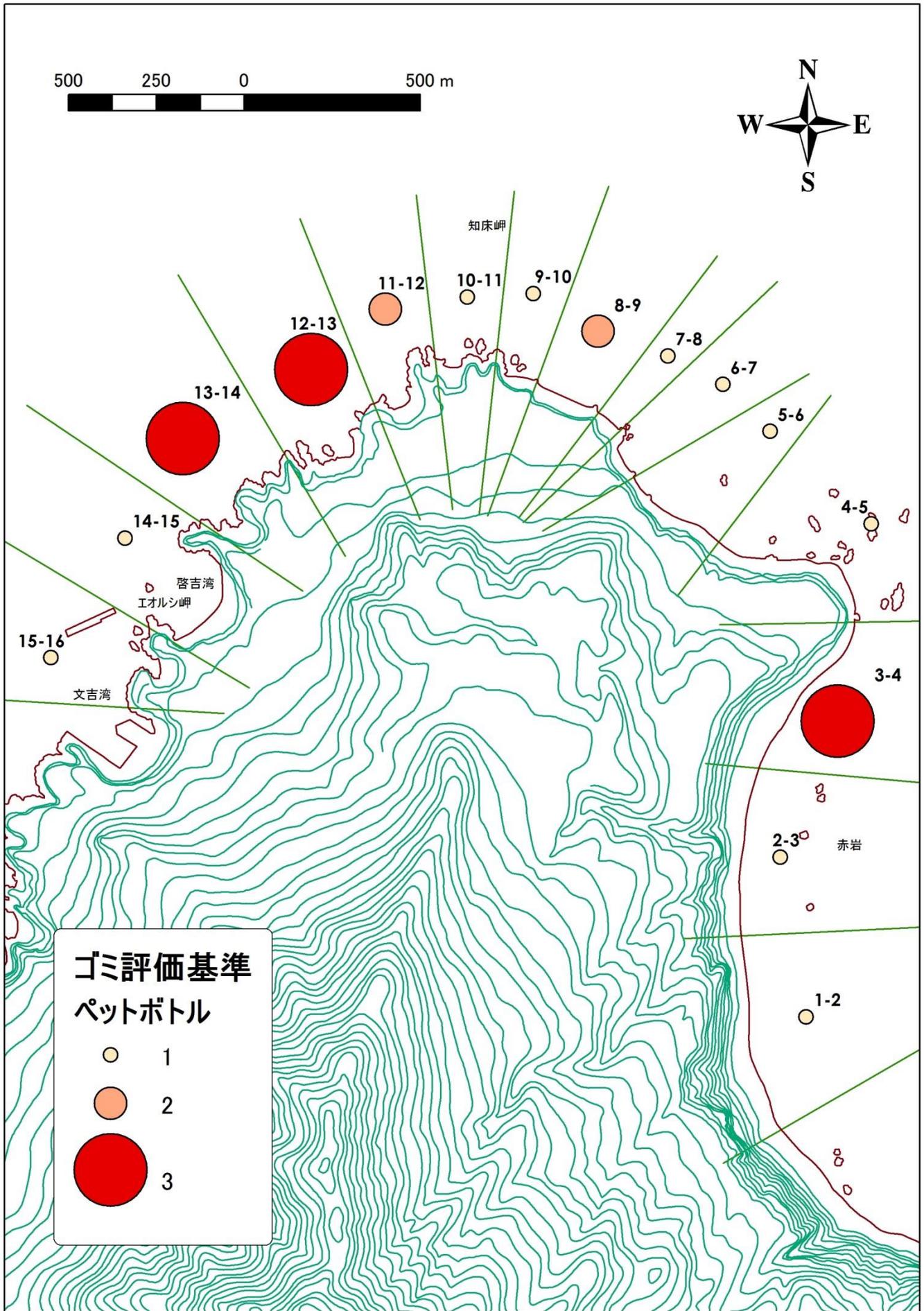


図 2 知床岬地区(文吉湾～赤岩地区)漂着ゴミ分布図 (ペットボトル)

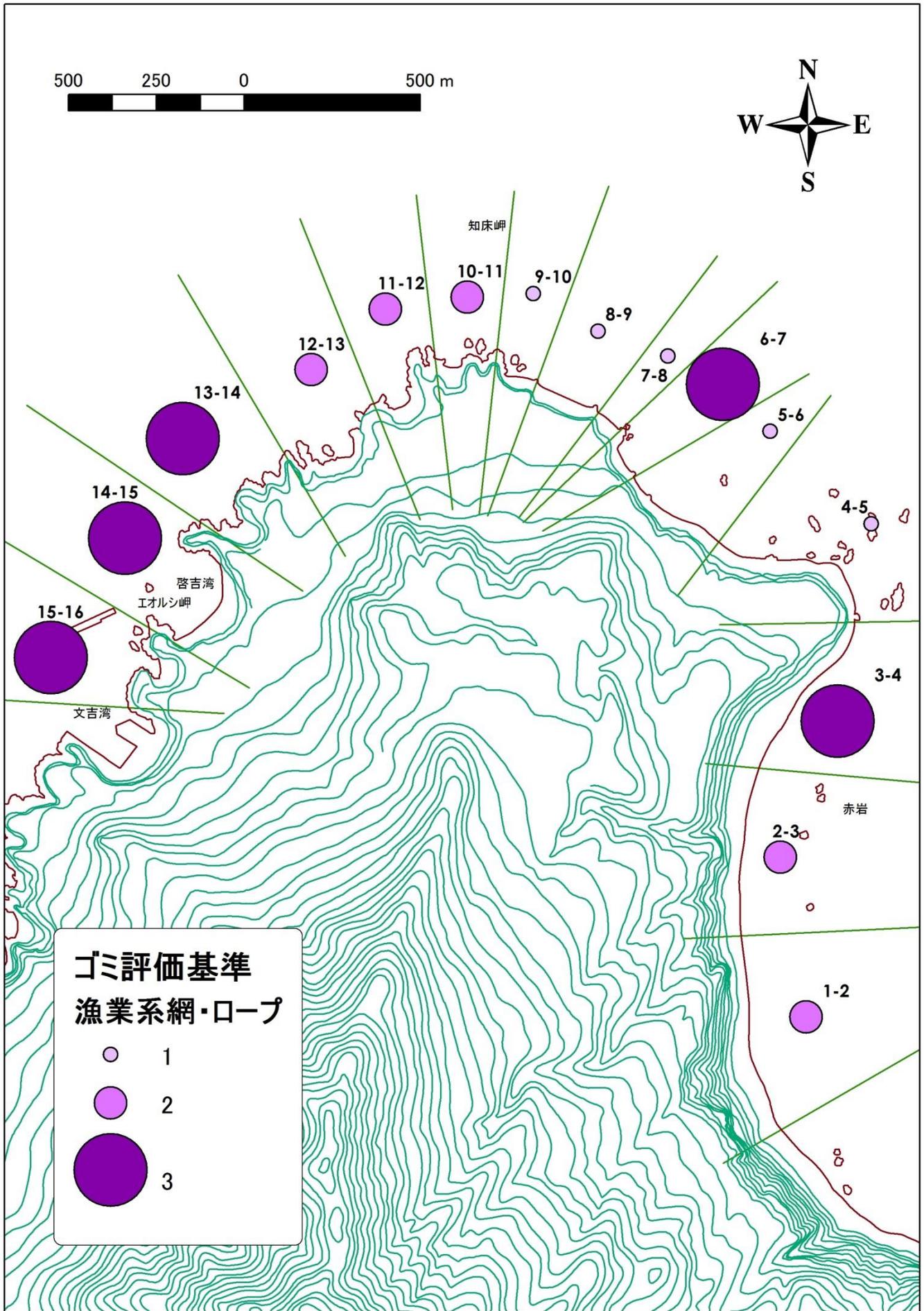


図 3 知床岬地区(文吉湾～赤岩地区)漂着ゴミ分布図 (漁業系網・ロープ)

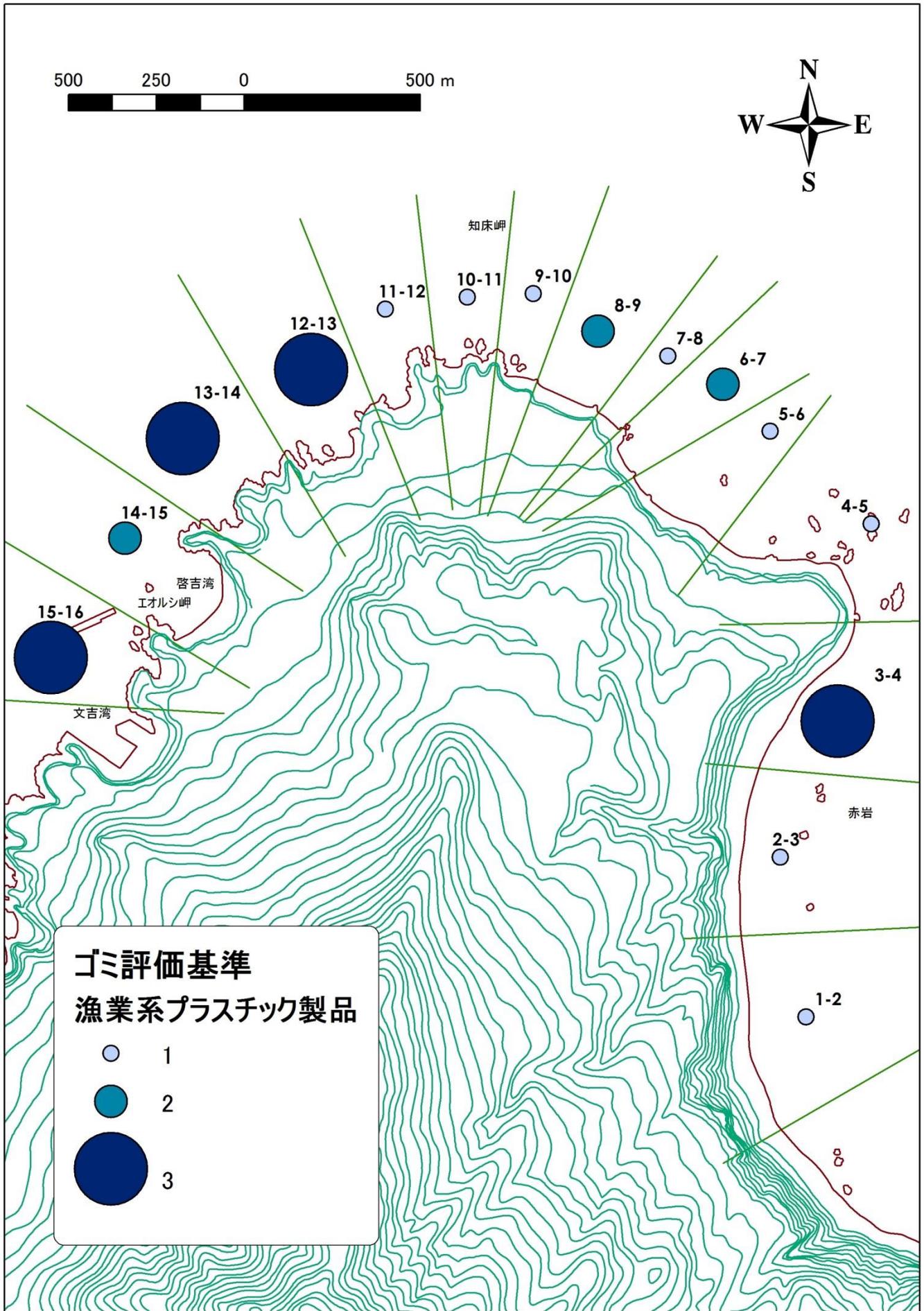


図 4 知床岬地区(文吉湾～赤岩地区)漂着ゴミ分布図 (漁業系プラスチック製品)

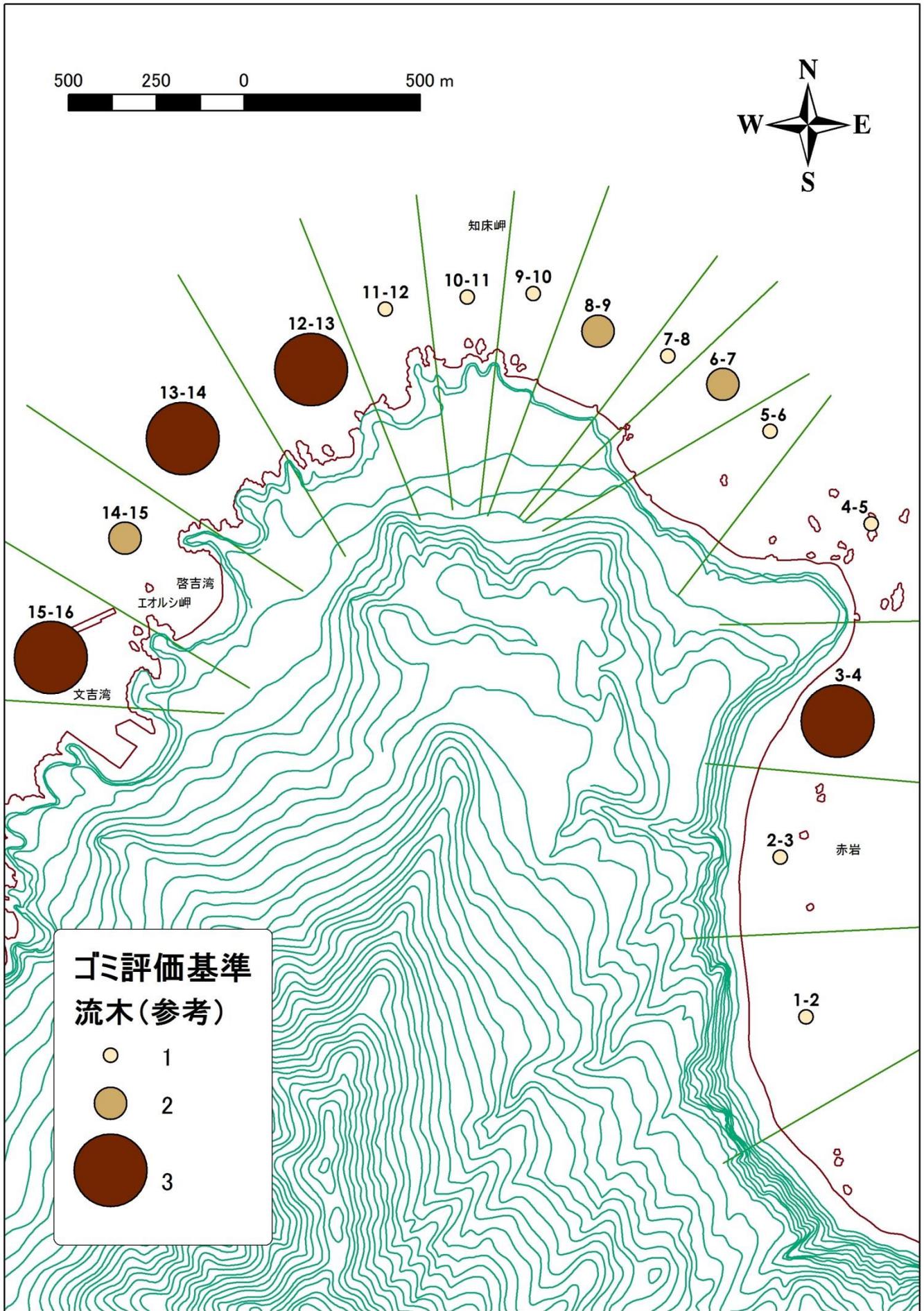


図 5 知床岬地区(文吉湾～赤岩地区)漂着ゴミ分布図 (流木・参考)

外来種アメリカオニアザミの分布

アメリカオニアザミは、文吉湾から啓吉湾にかけての海岸付近から台地上、アブラコ湾に面する台地上、知床岬灯台下の台地上と灯台周辺、知床岬灯台の東側の赤岩地区海岸付近から台地上、及び赤岩地区の海岸付近と一部の台地に至る斜面の7か所に分布していた。ブラウン・ブランケの方法による被度は、大部分で「+」であり、「+」の範囲の一部に「1」と見なされる場所が認められた。「1」と見なされる場所は、知床岬灯台の東側の赤岩地区海岸付近に2箇所、及び赤岩地区の海岸付近と一部の台地に至る斜面の3箇所の計5箇所であった（写真16）。また、文吉湾から啓吉湾にかけての海岸付近から台地上は、イネ科草本が地表を覆うようになってきているため、被度が「+」の状態ではあるが、極めて大きく目立つロゼット株の点在が観察された（写真17）。



写真 16 ブラウン・ブランケ法による被度で「1」と判断された赤岩地区のアメリカオニアザミの状況

（矢印部分にアメリカオニアザミが確認されるほか、他の植物の下にロゼット株や小さな株が多数生育している）



写真 17 ブラウン・ブランケ法による被度は「+」であるが、啓吉湾から文吉湾にかけての台地上に散在していたアメリカオニアザミの大きなロゼット株
(写真左の物差しは 1m)

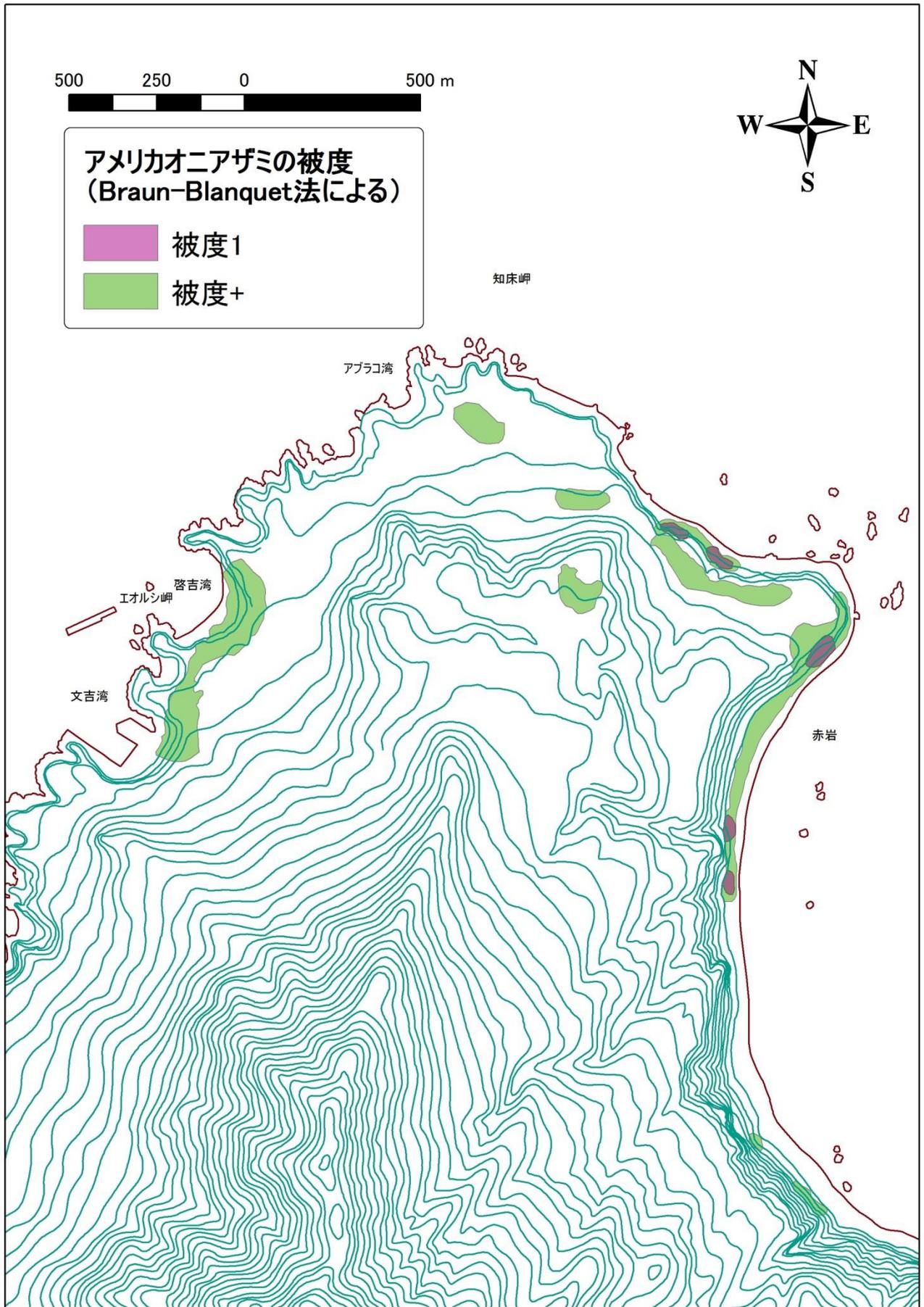


図 6 知床岬におけるアメリカオニアザミの分布

2-4. まとめ

知床半島先端部地区においてゴミ拾い等のボランティア活動を適正に実施するために漂着ゴミの分布状況の把握を行った。その結果漂着ゴミは、知床岬地区に一様に分布しているのではなく、多い場所と少ない場所があることが明らかになった。また、カン・ビン類やペットボトルなどの小さなゴミと漁業に係る網・ロープ類やプラスチック類などの大きなゴミといったゴミの種別によっても分布の傾向が異なることが明らかになった。漂着ゴミの分布が場所、及び種別によって異なるのは、波当たりや風当たりといった海象、気象条件のほか、波打ち際から海側に広がる岩礁域の発達度合いといった地形的な条件が場所によって異なるためであると推測された。本調査におけるゴミの種別による場所別の漂着情報により、ゴミ拾い等のボランティア活動を行う際には、カン・ビン類やペットボトルなどの収集、運搬が容易な小さいゴミが相対的に多かった区画 3-4、12-13、及び 13-14 を主対象として実施することが想定される。一方で、漁業に係る網・ロープ類やプラスチック類などの人力による収集が困難な大型のゴミについては、今後の分布の状況の変化を把握しながら、平成 20 年度（繰越）国立公園等民間活用特定自然環境保全活動（グリーンワーカー）事業「知床半島海岸ゴミ回収業務」によって実施されたようなヘリコプターの使用といった手法を検討する必要がある。

アメリカオニアザミについては、環境省事業による平成 16 年度からの防除作業に加え、平成 19 年度から実施されてきているエゾシカ捕獲事業によるエゾシカ密度の低下によって植生が回復傾向にあり、分布範囲が縮小してきている。しかし、根絶には至っていないのが現状である。本調査においてアメリカオニアザミが生育していたのは、風当たりが強く植生回復が遅い傾向にあり裸地の多い場所、及び生育している場所が砂利であるため、根元近くからの刈り取りが困難な場所であった。今後、アメリカオニアザミの分布拡大を抑制し根絶を目指すためには、刈り取り作業を啓吉湾から文吉湾にかけての海岸から台地上、知床岬灯台下、及び赤岩地区について重点的に実施することを検討する必要がある。ボランティア活動によって刈り取り作業を実施する場合には、船による入出港場所から近い啓吉湾から文吉湾にかけての海岸から台地上が現実的であると考えられる。

3. シマフクロウとの共生のための啓発資料の作成

3-1. 業務の内容

シマフクロウに興味を持ち、知床を訪れる公園利用者への普及・啓発資料として、映像「シマフクロウの未来のために」（約9分間）を作成した。

羅臼ビジターセンターや世界遺産センター等において、シマフクロウに興味関心があり、保護等の取組に一定の理解を示していただけたような限定的な利用者への啓発に使用することを想定し、あわせて、知床地域での学校教育や観光・ガイド事業者等に対する理解促進のための利用も視野に入れて映像の制作を行った。公園利用者は、この映像を視聴することで、シマフクロウの生態や希少性、環境省などによるシマフクロウ保護増殖への取り組み、もし公園利用者がシマフクロウに出会った場合に守るべきマナーなどについて知ることができるような内容とした。ナレーションは日本語で収録し、ナレーションの英文字幕を作成した。映像を収録したDVDでは、メニューから日本語ナレーションのみのバージョンと、日本語ナレーションおよび英文字幕バージョンの2つのバージョンが選択できるようにしている。映像の制作は全編HD（高精細度）で行ったが、映像の形式は、複製が可能なDVD-VIDEO（MPEG-2、NTSC）とした。

映像の制作にあたっては、シマフクロウ研究者である竹中健氏、シマフクロウの保護に携わる鳥獣保護員の山本純郎氏、羅臼町役場の田澤道広氏、羅臼町郷土資料館の涌坂周一氏に対してシナリオや映像の選定などに関するヒアリングを行い、内容に反映した。

撮影はシマフクロウの専門家で、現地で給餌等の保護活動にあたっている鳥獣保護員の山本純郎氏に指導、羅臼町および根室市で実施し、季節の面で撮影が難しいものに関しては、資料映像を購入した。シマフクロウの生態イメージの撮影は、シマフクロウの専門家、現地で給餌等の保護活動にあたっている鳥獣保護員の山本純郎氏に指導のもと根室市初田牛の給餌場で実施した。撮影にあたっては以下のような配慮を行った。

- 1) 不特定の野生のシマフクロウを撮影することで、シマフクロウの人慣れが新たに起こる事を防止するため、撮影は環境省が管理を行っている初田牛の給餌場で、特定の個体を対象として実施した。その他のシマフクロウの映像についても、環境省野生生物保護センターで撮影されたものを使用した。
- 2) 撮影がシマフクロウの繁殖に対し影響を及ぼすことを防ぐため、撮影はシマフクロウが繁殖期に入る前の日程（1月30日～2月2日）で実施した。
- 3) 撮影によるシマフクロウに対する人慣れを防ぐため、撮影の1週間以上前にブライ

ンド（写真 18）を設置し、夜間の撮影はブラインドの中から撮影を行った。シマフクロウが給餌場に来訪する前の時間帯である 15 時 30 分頃からブラインド内で待機、撮影を行い、シマフクロウが給餌場から去った後に撤収した。

- 4) ライトによるシマフクロウへの影響が最小限になるよう、光量調整が可能なライトで可能な限り暗い光条件のもとで夜間の撮影を行った。より暗い光で撮影を行うために、撮影には高感度カメラを用いて実施し、編集段階での後処理として更に高感度処理を加えた。



写真 18 シマフクロウ生態イメージの撮影のためにセッティングされたブラインド
(根室市初田牛)

3-2. 業務実施スケジュール

下記スケジュールの通り、業務を実施した。撮影にあたっては、菅野正巳氏、青木則幸氏（シマフクロウ巡視員）、山本純郎氏の多大な協力を頂いた。

表 3 業務実施スケジュール

日付	場所	業務	内容
10/26	羅臼町	打合せ（第1回）	企画趣旨・方針等の打ち合わせ
10/31	羅臼町	打合せ（第2回）	スケジュール・映像の内容について
11/7	釧路市	打合せ（第3回）	スケジュール・映像の内容について
11/11	羅臼町	撮影	樹洞のある大木、魚道のあるダム
11/11	斜里町	打合せ（第4回）	竹中健氏ヒアリング
11/12	羅臼町	撮影	巣箱の架け替え作業
11/14	羅臼町	打合せ（第5回）	田澤道広氏ヒアリング
11/15	羅臼町	打合せ（第6回）	涌坂周一氏ヒアリング
11/21	羅臼町	打合せ（第7回）	山本純郎氏ヒアリング
12/10	根室市	撮影準備	現場確認、山本純郎氏打合せ
1/22	根室市	撮影 撮影準備	山本純郎氏インタビュー映像 シマフクロウ生態イメージ撮影準備
1/23	羅臼町	撮影	シマフクロウに関する啓発活動イメージ
1/30-2/2	根室市	撮影	シマフクロウ生態イメージ
2/28	釧路市	試写	パイロット版試写・編集方針確認
3/11	札幌市	編集	ナレーションレコーディング
3/19	羅臼町	編集	完成・パッケージング

3-3. まとめ

本事業で作成した DVD は、知床の森の中でひっそりと暮らしているシマフクロウを表現し、我々はその姿を見る機会が極めて少ないシマフクロウについて、保護と共生への理解が得られる内容となっている。また、その中でも、もしシマフクロウに出会うことがあったら、守ってほしいマナーなどに関して、正しく伝えることを目的とした。

まず、シマフクロウの鳴き交わしから始まるイントロに続き、基本的な生態、分布、希少性、個体数の増減と保護の取り組み、シマフクロウを観察するときのルールとマナーなどについて、網羅的に学ぶことができる内容となっている。また、全編で 9 分間程度の内容で、多くの人が飽きることなく視聴できるように配慮した。

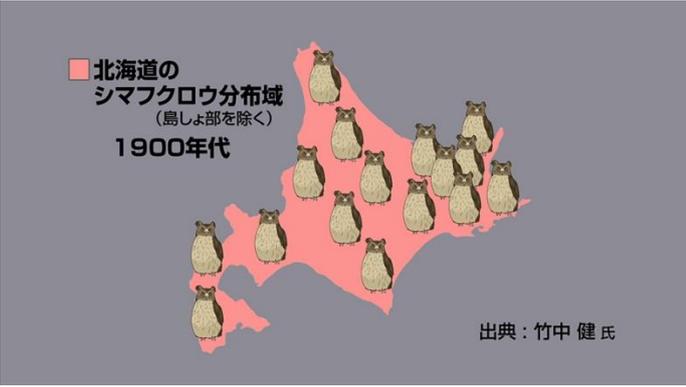
さらに全体を通じて、シマフクロウと知床の自然環境の豊かさが伝わる内容となっており、もしシマフクロウの姿を見ることができなくても、例えばその声を聴くことだけでも、知床の自然の奥深さを感じ取ってほしい、というメッセージが込められている。

4. 資料

4-1. 「シマフクロウの未来のために」シナリオ

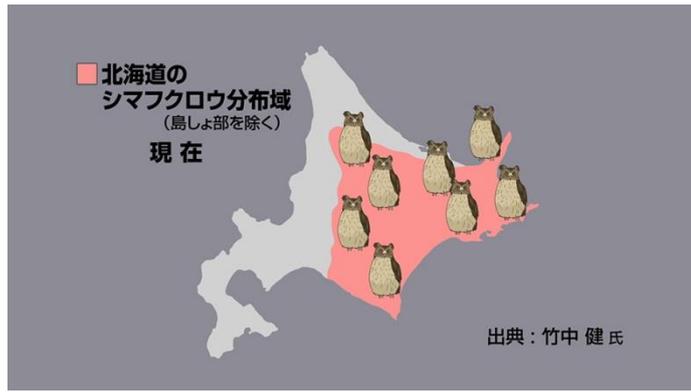
スクリーンショット	ナレーション／英文字幕
 <p>シマフクロウ</p>	<p>(シマフクロウの鳴き声) 森にこだまする声の主は、世界で最大級のフクロウの仲間、シマフクロウ。</p> <p>Echoing in the forest is the hoot of the Blakiston's fish-owl, one of the largest owl species in the world.</p>
 <p>シマフクロウ</p>	<p>シマフクロウは翼を広げると約180センチ、</p> <p>Blakiston's fish-owls, which have a 1.8-meter wing span.</p>
 <p>シマフクロウ</p>	<p>大きな目でまわりを見渡しています。</p> <p>This fish-owl is using its large eyes to monitor its environment.</p>
 <p>この映像は高感度処理を加えています</p>	<p>シマフクロウは夜行性で、主に夜に活動しています。</p> <p>This bird becomes active at night.</p>

スクリーンショット	ナレーション／英文字幕
	<p>大きなツメで、魚を捕まえました。 シマフクロウの主食は魚ですが、そのほかにもネズミなどの小動物やカエルなどを食べることもあります。</p> <p>He has caught fish with his huge claws. Feeding chiefly on fish, they also eat mice, frogs and other small animals.</p>
	<p>シマフクロウはアイヌの人々から「コタンクルカムイ（村の守り神）」と呼ばれ、最も大切な神の一つとされていました。</p> <p>The Ainu call them <i>kotan-kar-kamuy</i> (the guardian god of the village), cherishing them as one of their most important gods.</p>
 <p>環境省レッドリスト「絶滅危惧IA類」</p>	<p>北海道の豊かな自然の象徴とも言えるシマフクロウ。 しかし、シマフクロウは近い将来絶滅の危険性が極めて高い種として環境省レッドリストで『絶滅危惧IA類』に選定されており、絶滅が心配されています。</p> <p>Although these birds symbolize Hokkaido's natural bounty, they are at particularly high risk of extinction, and are thus categorized as Critically Endangered on the Red List of Japan.</p>
 <p>シマフクロウの未来のために</p>	

スクリーンショット	ナレーション／英文字幕
	<p>シマフクロウは、世界でもごく限られた地域にのみ分布し、日本では北海道だけに生息しています。北海道は彼らにとって重要な生息域の一つなのです。</p> <p>This owl species, found in very limited areas worldwide, lives only in Hokkaido, Japan. Hokkaido is one of their important habitats.</p>
	<p>かつて、シマフクロウは北海道全域に生息し、その数は1000羽以上であったとの推定もあります。</p> <p>More than 1,000 Blakiston's fish-owls are said to have lived throughout Hokkaido at one time.</p>
	<p>しかし、この北海道でも開発などにより個体数が激減し、一時は80羽以下にまで減ってしまいました。</p> <p>Due to development and other activities, however, the population once plunged to below 80.</p>
	

スクリーンショット

ナレーション／英文字幕



現在では、様々な保護活動により回復傾向にあります。

Their number is now on the increase, thanks to various conservation efforts.



北海道に生息するシマフクロウのおよそ半数は知床に暮らしています。

Almost half of the Blakiston's fish-owls in Hokkaido live in Shiretoko.



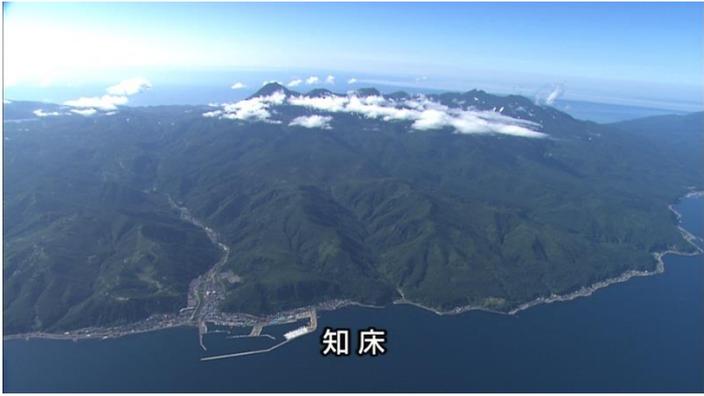
知床は絶滅の危機に瀕するシマフクロウにとって、とても重要な場所なのです。

Shiretoko is a very important habitat for this endangered species.



スクリーンショット

ナレーション／英文字幕



なぜ知床ではシマフクロウが生き残れたのでしょうか。

Why have they been able to survive in Shiretoko?



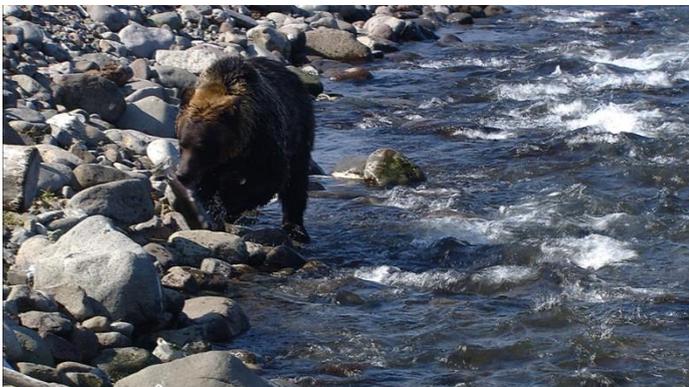
知床の川には毎年秋になると、カラフトマスやシロザケが遡上します。

Pink salmon and chum salmon swim upstream in Shiretoko rivers every autumn.



魚たちは海の栄養を陸に運ぶとともに、それを餌とする多くの生き物たちに利用されています。

These fish carry marine nourishment ashore and support the lives of many creatures that feed on them.



スクリーンショット

ナレーション／英文字幕



また、知床の川にはオシヨロコマというイワナの仲間が多数生息しています。これらの魚もシマフクロウの重要なエサとなっているのです。

Shiretoko rivers also abound with the Dolly Varden, a Japanese char species that's an important food source for Blakiston's fish-owls.

知床に今も残る大きなミズナラの木。

These large Japanese oak trees still grow in Shiretoko.

シマフクロウは大木にできる樹洞を巣にして子育てをします。

Blakiston's fish-owls raise their chicks in the hollow of these trees.

スクリーンショット	ナレーション／英文字幕
	<p>これほど大きな樹洞ができる大木になるためには、長い年月が必要です。</p> <p>It takes many years for the trees to grow big enough to have such a large hollow inside.</p>
	
	<p>海と陸の生態系をつなぐ豊かな河川環境。知床には、現在でもシマフクロウが暮らすことができる森と、こうした豊かな川が残されているのです。</p> <p>The rich river environment links the marine and land ecosystems.</p> <p>Shiretoko still possesses rivers and forests where Blakiston's fish-owls can live.</p>
	

スクリーンショット	ナレーション／英文字幕
	<p>シマフクロウは、エサとなる動物たちや、巣作りに必要な大木の樹洞など、知床の豊かな自然に支えられて、生きています。まさにこの、知床の自然を象徴する生き物なのです。</p> <p>Their lives are supported by the rich natural environment of Shiretoko, especially the prey animals and the tree hollows necessary for their nest-building.</p> <p>Blakiston's fish-owls symbolize the natural bounty of Shiretoko.</p>
	<p>この豊かな北海道・知床でも、様々な保護の取り組みが彼らの暮らしを支えています。</p> <p>Diverse conservation efforts support their lives in Shiretoko, an area in Hokkaido endowed with a rich natural environment.</p>
	
 <p>巣箱の取り付け</p>	<p>環境省では、シマフクロウがヒナを育てるための巣箱をかける活動をしています。</p> <p>The Ministry of the Environment has placed nest boxes for them to raise chicks.</p>

スクリーンショット

ナレーション／英文字幕



実は知床でも、シマフクロウが子育てに使うことができるほどの大きな樹洞は、なかなかありません。

Actually, even in Shiretoko, it is difficult to find tree hollows large enough for the owls to raise chicks.



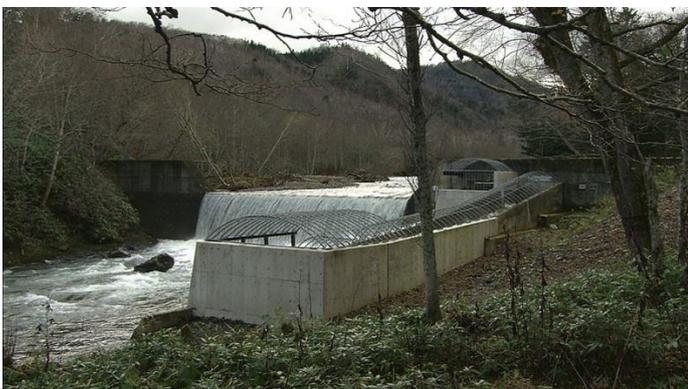
このため、樹洞のかわりに使える巣箱の設置を行っています。

These nest boxes are expected to act as a substitute for hollows.



また、生息域の環境を保全するために、砂防ダムに魚道をつける取り組みなどが行われています。

Fish passes at sediment control dams have been built to protect the owls' habitat.



スクリーンショット

ナレーション／英文字幕



山本氏コメント「知床に関しても、彼らの生活圏には、営巣できるような樹洞をもった大木は本当に少ないんですよ。生活圏以外にはありますけど。ですからその生活圏の中に、彼らが利用できる巣箱を設置して、利用してもらおうということで、始めたわけですね。

Huge trees with hollows large enough for the owls to build nests are very limited in number in their natural habitats in Shiretoko. Thus we launched a project to build nest boxes in their home range for them to use for rearing chicks.



それがうまくいきまして、かけた巣箱はほとんどのぞいたりとか、そういうことをしてくれるようになりましたから、徐々に数を増やしてくれたんだと思います。

That seems to have worked; many of these boxes have come to be used by the birds and their population has steadily increased.



スクリーンショット	ナレーション／英文字幕
	<p>魚に関しても、昔はもっともっといたみたいですが、それも徐々に回復してきているみたいですから、その両方がうまくそろったんでしょうね。それでここまで増えたんだと思います。」</p> <p>The fish population is also on the rise, although the number is still smaller than it used to be.</p> <p>The owl population may have become larger, probably because of the increase of both the nests and food sources.</p>
	<p>知床の森の中で、ひっそりと暮らしているシマフクロウ。</p> <p>Blakiston's fish-owls live in Shiretoko forests.</p>
	<p>残念ながら私たちが彼らに出会うチャンスは多くありません。</p> <p>It is unfortunate that we don't have many chances to see them.</p>
	<p>それでも、もし、皆さんがシマフクロウに出会うことがあったら、必ず守っていただきたいことがあります。</p> <p>Even so, there are things you should keep in mind when encountering them.</p>



「野生のフクロウとは適切な距離をとる」
Keep a proper distance from wild owls.



もし、シマフクロウに出会うことがあっても、そっと遠くから観察し、けっして驚かさないようにしてください。
If you happen to see them, quietly observe them from a proper distance. You should never surprise them.



「営巣地には絶対に近づかない」
Never approach their nesting places.



巣をつくりヒナを育てているシマフクロウは、とても神経質です。もし、そこに近づけば、子育てをやめてしまうこともあります。
Blakiston's fish-owls raising chicks in the nest are very sensitive; they might abandon their chicks if you approach them.

スクリーンショット

ナレーション／英文字幕



「フラッシュなどの強い光を向けない」
フクロウは夜行性です。強い光を浴びること
で、目がくらんでしまい、事故につなが
ることがあります。

Don't direct a flashlight or strong light at them.
Since the Blakiston's fish-owl is nocturnal, the strong
light may dazzle them and cause accidents.



シマフクロウは、一時期よりも生息数が増
加したとはいえ、現在でも絶滅の危険性が
高いことには変わりないのです。

Although the population of Blakiston's fish-owls has
increased, they are still at a high risk of extinction.



スクリーンショット

ナレーション／英文字幕



シマフクロウを守るために、行政や民間の団体などにより、森を育てるための植樹や、シマフクロウについて人々に知ってもらう普及啓発といった様々な活動が行われています。

To protect them, the government and private bodies are conducting diverse conservation activities, including tree-planting for reforestation and educational campaigns to help people know more about them.



森林を再生させる植樹活動



本物と同じ重さのぬいぐるみを使った普及啓発

自然の中でシマフクロウを目にすることができなくても、その存在を感じることで、知床の自然の奥深さを感じ取ってください。

Even if you cannot see these owls in the field, their existence allows you to sense the grand nature of Shiretoko.



<p>スクリーンショット</p>	<p>ナレーション／英文字幕</p>
	<p>シマフクロウが安心して生きていける未来のために 。</p> <p>To enable Blakiston's fish-owls to live peacefully for years to come.</p>
<p>企画 環境省</p> <p>制作 公益財団法人 知床財団</p> <p>制作協力 北海道映像記録株式会社</p> <p>このビデオの映像は、シマフクロウに影響を与えないよう、 専門家の指導の下で撮影したものです</p>	<p>(シマフクロウの鳴き声)</p>

4-2. 字幕スーパー対訳

日本語	英語
<p>シマフクロウ</p> <p>この映像は高感度処理を加えています</p> <p>「コタンクルカムイ(kotan-kar-kamuy)」(村の守り神)</p> <p>環境省レッドリスト「絶滅危惧 I A 類」</p> <p>シマフクロウの未来のために</p> <p>シマフクロウの分布域 出典：竹中 健(たけなか たけし)氏</p> <p>北海道のシマフクロウ分布域<島しょ部を除く></p> <p>1900年代 1980年代 現在</p> <p>知床</p> <p>オシヨロコマ</p> <p>樹洞</p> <p>巣箱の取り付け</p> <p>長年シマフクロウの保護に携わる鳥獣保護員 山本 純郎(やまもと すみお)さん</p> <p>魚道</p> <p>野生のフクロウとは適切な距離をとる</p> <p>そっと遠くから観察する</p> <p>営巣地には絶対に近づかない</p>	<p>Blakiston's fish-owl</p> <p>These images have been high-definition processed.</p> <p><i>Kotan-kar-kamuy</i> (the guardian god of the village)</p> <p>Critically Endangers Species on the Red List of Japan</p> <p>For the future of the Blakiston's fish-owl</p> <p>Range of Blakiston's fish-owl habitats Source: Mr. Takeshi Takenaka</p> <p>Range of Blakiston's fish-owl habitats in Hokkaido (excluding islands)</p> <p>1900s 1980s Present</p> <p>Shiretoko</p> <p>Dolly Varden</p> <p>Tree hollow</p> <p>Placing nest boxes</p> <p>Mr. Sumio Yamamoto, a wildlife protection staff member who has long been involved in the protection of Blakiston's fish-owls.</p> <p>Fish pass</p> <p>Keep a proper distance from wild owls.</p> <p>Observe quietly from a proper distance.</p> <p>Never approach their nesting places.</p>

<p>フラッシュなどの強い光を向けない</p> <p>森林を再生させる植樹活動</p> <p>本物と同じ重さのぬいぐるみを使った普及啓発</p> <p>このビデオの映像は、シマフクロウに影響を与えないよう、 専門家の指導の下で撮影したものです</p> <p>企 画</p> <p>環 境 省</p> <p>制 作</p> <p>公益財団法人 知床財団</p> <p>制作協力</p> <p>北海道映像記録株式会社</p>	<p>Don't direct a flashlight or any strong light at them.</p> <p>Tree-planting for reforestation</p> <p>Educational activities using stuffed toys as heavy as the real owl.</p> <p>These video images have been filmed under expert guidance to avoid affecting the lives of Blakiston's fish-owls.</p> <p>Planning</p> <p>The Ministry of the Environment</p> <p>Production</p> <p>Shiretoko Nature Foundation</p> <p>In collaboration with</p> <p>Hokkaido Eizo Kiroku Co., Ltd.</p>
--	--

打 合 せ 記 録 簿

第 1 回		追番	頁
日時	平成24年10月26日	場所	環境省羅臼自然保護官事務所
業務名	平成24年度 知床半島先端部地区適正利用促進業務	打合方式	会議
出席者	発注者側 三宅自然保護官	受注者側	坂部

■ 岬の調査について

- ・できる限り早めに岬に調査に行って、状況を確認する。
- ・文吉～赤岩までの間で、どの湾のどの場所にゴミやアザミがあるのかを知りたい。

■ 映像について

- ・全体の時間について特にこだわりはない。
- ・盛り込んでほしい要素は以下
 - ・シマフクロウとはどんな鳥か？
 - ・どれくらい少ないか。
 - ・シマフクロウにとって知床はどんな場所か。
 - ・保護のためにどんな取り組みをどのくらいやっているのか。
 - ・ルールとマナー（近づきすぎない、など）
- 地図や生息数のグラフなども必要なら入れる。

- ・映像は撮影できる範囲のものを使う。（無理はいわない）
- ・環境省ではハイビジョン素材はまったくもっていない。
- ・静止画なら、ある程度提供は可能。

■ スケジュールについて

- ・今後の流れは以下
 - シナリオを作成（知床財団）
 - ↓
 - 環境省で確認（野生課にも）
 - ↓
 - 専門家にヒアリング
 - ↓
 - 撮影

打 合 せ 記 録 簿

第 2 回		追番		頁
日時	平成24年10月31日	場所	環境省羅臼自然保護官事務所	
業務名	平成24年度 知床半島先端部地区適正利用促進業務	打合方式	会議	
出席者	発注者側	三宅自然保護官	受注者側	坂部、眞々部

■シナリオについて

- ・本映像のメッセージ
シマフクロウが絶滅の危機に瀕している野生生物であることを伝えた上で、仮に見る機会があった場合にどのような注意事項があるかを伝える。
- ・取り上げる保護活動の内容について
巣箱の設置等、土地の買い上げ、魚道など生息地の整備はどうか。
シマフクロウ保護の活動が、個人の活動から民間団体や行政の活動に拡大した流れを追う構成とする。
また、個体の保護、増殖から生息地の保護、再生に広がって行く流れを意識し構成する。
→以上をもって三宅自然保護官、環境省野生生物課で協議して頂く。
* 救護は今回の構成上内容から外す。
- ・その他内容について
生息地は世界地図のスケールで示す。
生息数を盛り込む。 ex.北海道で○羽、知床半島で○羽
生息数の最新情報は三宅自然保護官より提供頂く。
「知床の豊かな自然を象徴する種…など」アンブレラ種の概念を盛り込む。
オショロコマ以外の食性についても言及する。

■映像について

- ・撮影を急ぐが、森林の映像は紅葉や葉を落とした状態が主になる。
- ・スチルは環境省に提供いただく。頂きたい画像の内容は別途三宅自然保護官に連絡。

■専門家ヒアリングについて

- ・山本氏、竹中氏を想定

■スケジュールについて

- ・11月第一週～第二週で環境省内部でシナリオを検討。
- ・釧路自然環境事務所で三宅自然保護官と野生生物課で内容に関する打合せを実施予定。知床財団も出席可能か検討する。

打 合 せ 記 録 簿

第 3 回		追番		頁
日時	平成24年11月7日	場所	環境省釧路自然環境事務所	
業務名	平成24年度 知床半島先端部地区適正利用促進業務	打合方式	会議	
出席者	発注者側 大林課長、津田課長補佐、 三宅自然保護官	受注者側	坂部、眞々部	

■シマフクロウ映像について

<目的>

- ・羅臼ビジターセンターや地元観光協会等での上映を目的とする。対象はシマフクロウに関心のある公園利用者。フラッシュ撮影を行うツアー業者などもおり、ウトロの野川上席自然保護官にも映像の利用方法を相談する。

<内容>

- ・「シマフクロウが減少」という表現は不適。一旦減少したが増加傾向にある事を述べる。
- ・北海道の生息羽数は140羽、知床では25～6つがい。全体の4～5割。可能であれば知床の羽数データを頂く。
- ・生息域の変遷は1900年の生息確認市町村のデータ(野生生物課提供)と、現在の振興局単位の生息状況のデータを対比して表現する。
- ・シマフクロウの分布域は野生生物課提供のデータ(Wild Life International)に依拠し、世界地図スケールで表現する。
- ・生息羽数の変遷については野生生物課提供のデータに依拠する。
- ・国後島の分布も扱う。上記生息羽数には含まないため、分布地図には色を変えるなどして表現する。
- ・民間の活動の紹介としてシマフクロウエイド、野鳥の会、山本氏、コロカムイ等検討する。
- ・事故対策は意図せず生息地情報を与える可能性があり不適。
- ・データと生態等の内容に関して専門家(山本氏、竹中氏)にヒアリングを行う。
- ・最後のメッセージには、シマフクロウを鳴き声で感じるような接し方の提案を行う。
- ・冒頭部分に厚みがあっても良い。(大林課長)
- ・涌坂氏等のインタビューを盛り込むことも検討する。

■スケジュール・撮影について

- ・本打合せの検討内容を反映したシナリオを以て専門家に打診する。
- ・山本氏ヒアリングは別件で11月来羅の際にヒアリングを実施。三宅自然保護官同席。初田牛の撮影可否も確認。
- ・竹中氏ヒアリングは電話ヒアリング想定。来斜里の機会も検討。
- ・本格的な撮影は専門家へのヒアリング後の12月以降。
- ・WLCのシマフクロウ撮影は11月中に実施。撮影方法等は知床財団が直接WLCと調整する。
- ・11月にシマフクロウ巣箱メンテナンス作業の撮影を行う方向で調整(津田課長補佐)。
- ・撮影地はWLCのほか、初田牛を想定。必要であれば山本氏に打診する。

■その他

- ・シマフクロウ座談会(別業務)について

打 合 せ 記 録 簿

第 4 回			追番		頁
日時	平成24年11月11日	19:30-20:30	場所	ホテルグランディア斜里駅前	
業務名	平成24年度 知床半島先端部地区適正利用促進業務		打合方式	会議(専門家ヒアリング)	
出席者	発注者側	三宅自然保護官	受注者側	坂部	

竹中建氏(シマフクロウ専門家)へのヒアリング

■シマフクロウ映像について

・今回作成する映像の目的と内容について、三宅保護官と坂部から説明を行い、その後、シマフクロウ専門家の竹中氏より意見をいただいた。

<竹中氏意見>

全体について

- ・このような、きちんとした映像を作るべきだと思っていた。全体的には賛成である。
- ・今回のものは、知床を対象に5～10分程度のものとのことなので、今後シマフクロウの保護増殖の啓発の観点から、もう少し踏み込んだ内容のものを作るとよい。

生態など

- ・「日本で最大」ではなく「世界で最大」にすべき。
- ・夜行性であることをはじめの方に入れる。
- ・「コタンコロカムイ」と呼ばれ、アイヌが最も大切にしていた神であることを入れるべき。

生息域・生息数などについて

- ・世界の分布地図は、情報が古いので、最新のものに。
- ・日本では北海道にしかないことを明確にすべき。
- ・「1990年ころまでは」は、間違い。「かつて」「19世紀」「戦前」などにすべき。また、1,000羽という数字も示さない方が無難。
- ・70羽という数にも意味がない。100羽以下にすればよい。
- ・現在の140羽という数字にも諸説あり出す意味があるか？「現在は少しずつ回復しています。」でいいのでは？
- ・知床の生息数も、60羽ではなく、「全道の約半数」でよい。

環境など

- ・森と川が一体になっている映像を入れてほしい。植別川などいいかもしれない。
- ・川の中のオシヨロコマの映像や、サケの映像があるとよい。

保護活動など

- ・もっと環境省の活動をアピールしなくていいのか？
- ・民間の活動は、無理に入れなくてもいいのでは？入れるなら、知床での活動にするべき。
- ・ダムはどこを想定か？→春苧古丹川の新しいダムを考えている。
- ・スリットタイプも入れてもいいのでは？岩尾別のピリカベツのダムなどもよい。

ルール&マナーについて

- ・説教臭い感じがする。ナレーションや字幕をうまく使って、分かりやすく伝えるべき。
- ・個々の部分の最後に、民間の活動や普及活動などを入れて、マイナスイメージで終わらないようにしてはどうか。

■今後について

- ・今回のシナリオを作り直したら、メールで送ってほしい。

打 合 せ 記 録 簿

第 5 回				追番		頁
日時	平成24年11月14日	13:30-15:30	場所	羅臼町役場2階応接室		
業務名	平成24年度 知床半島先端部地区適正利用促進業務		打合方式	会議(地域専門家ヒアリング)		
出席者	発注者側	三宅自然保護官	受注者側	坂部、眞々部		

羅臼町役場、田澤道広氏へのヒアリング

■映像について

・天然記念物、絶滅危惧種など、法的な枠組みは紹介しないのか。天然記念物は知名度が高い。

→環境省としては天然記念物への言及は不要。

・なぜ生息地に関する情報を出せないのかという事に関して、明確な説明をすべき。

シマフクロウの保護がここまで進んでいて、ここまでわかっているが、こういう理由で生息地は教えられない等。

→生息範囲の説明のカットや、巣箱架けのカットで正確な場所を教えられない理由を述べる。

→あるいは、インタビューで説明する。

→あるいは、テロップを最後に流す。

・シマフクロウの保護活動について、本来は自然のままが良いが、現状仕方なく巣箱など保護活動を行っている。

→この映像を見て餌付けがおかしいと気づく人もいるはず。

打 合 せ 記 録 簿

第 6 回				追番		頁
日時	平成24年11月15日	15:00-15:30	場所	羅臼町郷土資料館1階		
業務名	平成24年度 知床半島先端部地区適正利用促進業務		打合方式	会議(地域専門家ヒアリング)		
出席者	発注者側	三宅自然保護官	受注者側	坂部		

羅臼郷土資料館、涌坂周一氏へのヒアリング

■ インタビュー映像出演について

- ・既に涌坂氏は分科会を外れているが、問題ないか？
→町内における普及活動の紹介や、アイヌとのかかわり等人文学的な内容であれば適任。
- ・数パターン アイディアを出し、次回涌坂氏に打診する。
→内容が生態に関するものであれば山本氏、普及や人文学的なものであれば涌坂氏にお願いする。

■ 映像の内容について

- ・5~10分は短いのではないか。
→短時間で伝えきれないことは多いが、大枠でシマフクロウについて理解していただければよい。
- ・撮影の際、検討委員の同行が必要では。
→WLCは齊藤氏、初田牛は山本氏が同行する為問題ない。
- ・過去に環境省が協力して撮影した映像は、一度放映した後は自由に使える契約となっているはず。
→要確認。

打 合 せ 記 録 簿

第 7 回				追番		頁
日時	平成24年11月21日	10:00-11:30	場所	環境省羅臼自然保護官事務所		
業務名	平成24年度 知床半島先端部地区適正利用促進業務		打合方式	会議(専門家ヒアリング)		
出席者	発注者側	三宅自然保護官	受注者側	坂部、眞々部		

山本純郎氏(シマフクロウ専門家)へのヒアリング

■映像の内容について

- ・民間の活動の扱いは不要では。
- ・日本最大⇒世界最大級に。
- ・個体数の表現を<過去>1000羽以上、<ちょっと前>100羽以下、<現在>徐々に回復して倍近くなっているとする。

ある程度の数は入れた方が一般の人には良い。

- ・根室に現在は巣として使われていない樹洞がある。映像に使える→春苺ふ化場付近の木を使用予定。必要に応じて使用。
- ・木の上のシマフクロウのカット、冒頭部分は自然の中でのカットが良いのではないか。

■撮影について

- ・オショロコマを捕まえる映像を撮影するのであれば早い方が良い。
- ・ブラインド(野鳥の会の2人用が好ましい)を1週間前くらいから設置し、馴らしてから撮影する。
- ・ライトの明るさコントロールが出来るとよい。1灯のみ。
- ・撮影ポイントについて、カメラマン下見が必要。
- ・撮影時間は日没前15:30頃から、20:00ころまで。それ以外の時間は確率低い。
- ・年内は12月中旬過ぎまで(12/8以降)、年明けは10日前後、20日前後が都合悪い。11月中はOK。
- ・エサ代もらえるとうれしい。

■その他

- ・鳴き交わし、音声と映像別撮りも可。釧路市動物園でも良いかもしれない。
- ・NHK映像は三宅自然保護官が野生生物課を通じて問い合わせ中。

4-4. 専門家ヒアリング資料

「知床 シマフクロウの生きる場所」構成

映像（ <input type="checkbox"/> 新撮 <input checked="" type="checkbox"/> 資料）		内容
<p>目的</p> <p>全体的なテーマとして、知床の森の中でひっそりと暮らしているシマフクロウを表現し、我々がその姿を見ることはほとんどないシマフクロウについて、保護と共生への理解が得られる内容とする。また、その中でも、もしシマフクロウに出会うことがあったら、守ってほしいマナーなどに関して、正しく伝える。</p> <p>映像は羅臼ビジターセンターや世界遺産センター等において、シマフクロウに興味関心があり、保護等の取組に一定の理解を示していただけそうな限定的な利用者への啓発に使用することを想定している（広く一般に向けて使用することは想定していない）。あわせて、知床地域での学校教育や観光・ガイド事業者等に対する理解促進のためにも利用可能と考えている。</p>		
<p>イントロ～シマフクロウはどんな鳥？（30秒～1分）</p>		
00:00	<input type="checkbox"/> 木の上のシマフクロウ <input type="checkbox"/> 魚（オショロコマ）を捕まえるシマフクロウ <input type="checkbox"/> 魚を食べるシマフクロウ	<p>（シマフクロウの鳴き声）</p> <p>森にこだまする声の主は、日本で最大のフクロウの仲間、シマフクロウ。</p> <p>シマフクロウは翼を広げると約180センチ、耳のように見える羽角と呼ばれる羽が生えています。</p> <p>大きなツメで、魚を捕まえました。</p> <p>シマフクロウの主食は魚ですが、そのほかにも小動物やカエルなども食べます。</p> <p>北海道の豊かな自然の象徴とも言えるシマフクロウ。</p> <p>しかし、シマフクロウは絶滅の心配がされています。</p>

●シマフクロウが生きる知床の自然（2～3分）

□地図（世界地図WLI）



□（木が倒されたりする映像？）

□（河川改修などの映像？）

□分布図と生息数のグラフ

1900年代…ほぼ全道

現在…支庁レベル程度の分布で作図

。

□原生林と川の風景

□ミズナラの大木（PANアップ）

（人も一緒に？）

□魚を食べるシマフクロウ

または

□森の中でのんびり木にとまっているシマフクロウ

Q シマフクロウは、世界でもごく限られた地域にのみ生息しています。

北海道は彼らにとって重要な生息域の一つなのです。

Q 1990年ころまでは、シマフクロウは北海道全域に生息し、その数は1000羽ほどであったと考えられています。

しかし、この北海道でも開発などにより、一時は個体数が70羽ほどに激減してしまいました。

Q 現在では、様々な保護活動により北海道全体で140羽ほどのシマフクロウが暮らしていると言われています。

知床ではそのうちの約4割にあたる60羽ほどが暮らしています。知床はシマフクロウにとって最後に残された砦のような重要な場所です。

Q 知床には、現在でもシマフクロウが暮らすことができる森と、こうした豊かな川が残されています。

Q 知床に今も残る大きなミズナラの木。シマフクロウは大木にできる樹洞を巣にして子育てをします。

Q シマフクロウは、巣作りに必要な大木の樹洞や、エサとなる動物たちなど、知床の豊かな自然に支えられて、ひっそりと暮らしているのです。

Q

保護活動（2～3分）			
	<input type="checkbox"/> 取り組みの様子を具体的に紹介 <input type="checkbox"/> 具体例①：巣箱の映像 <input type="checkbox"/> 具体例②：砂防ダムの魚道の映像 <input type="checkbox"/> 具体例③：民間団体の活動、植樹など	Q	<p>この豊かな北海道・知床でも様々な保護の取り組みが彼らの暮らしを支えています。</p> <p>環境省では、シマフクロウがヒナを育てるための巣箱をかける活動をしています。</p> <p>また、生息域の環境を保全するために、砂防ダムに魚道をつける取り組みなどが行われています。</p> <p>それ以外にも、民間の団体などにより、植樹活動やシマフクロウを守るための環境保全活動が進められています。</p>
シマフクロウの未来のために（エンディング）（30秒～1分）			
	<input type="checkbox"/> バードウォッチングする人 <input type="checkbox"/> 樹上のシマフクロウ	Q	<p>知床の森の中で、ひっそりと暮らしているシマフクロウ。残念ながら私たちが彼らに出会うチャンスは多くありません。けれどもし、皆さんがシマフクロウに出会うことがあったら、必ず守っていただきたいことがあります。</p> <p>「野生のフクロウとは適切な距離をとる」 もし、シマフクロウに出会うことがあっても、そっと遠くから観察し、けっして驚かさないようにしてください。</p> <p>「営巣地には絶対に近づかない」</p>

	<p>□シマフクロウ（ズームバック）</p>	<p>巣をつくりヒナを育てているシマフクロウは、とても神経質です。もし、そこに近づけば、子育てをやめてしまうこともあります。</p> <p>どんな理由であれ、営巣地付近に近づくことは、絶対にやめてください。</p> <p>「フラッシュなどの強い光を向けない」フクロウは夜行性です。そのため、小さな光にも敏感に反応してしまいます。また、強い光を浴びることで、目が見えなくなってしまうこともあります。</p> <p>シマフクロウが安心して生きていける未来のために。</p>
--	------------------------	--

平成 24 年度 環境省北海道釧路自然環境事務所 請負事業

事業名：平成 24 年度知床半島先端部地区適正利用促進業務

事業期間：平成 24（2012）年 10 月 26 日～平成 25（2013）年 3 月 22 日

事業実施者：公益財団法人 知床財団

〒099-4356

北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別 531 番地

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料 [Aランク] のみを用いて作製しています。